

### 【棚物の置き方】

棚物は四畳半以上の広間に限って使う。小間には棚物は使用しない。

(風炉の場合) 風炉の右側(客付)に置く。この場合だいたい風炉の敷板と畳の右縁とのほぼ中央、一目客寄りで、縁から奇数目の三ッ目、五ッ目におきつける。棚地板(畳につく一番下の板)の前端は、風炉の敷板の前端から畳目一ッ目入りになる。

大棚で風炉のおけるもの、長板の大などの場合も、点前畳の真ん中から十六目奥で、左右の関係は同様におきつける。

(炉の場合) 点前畳の中央、炉縁の延長線から24cm向こうにおく。その左右は、棚の右側(客付)は、畳の縁までの目数が、左側(勝手付)の畳の縁までよりも一目少ないように奇数に置きつける。

### 【棚物の前後】

前後のはっきりしない棚物は板の木目によって前後を決める。

棚の地板の木目が根になるほうを勝手付(本勝手は左側)におけばよい。その時棚の上は根が客付(右側)になる。

丸卓は足が三本ついているから、炉の時は一本足を前に、風炉の時は二本足を前にする。この場合は棚板の木目は関係ない。

## 【大 棚】

### ◎台子

台子の最も基本型である真台子は、大燈国師（南浦紹明）が龜山天皇の文永年間に支那の国より持ち帰った物に始まると云われている。

真台子	黒真塗 四本柱 大―利休型（盛阿弥）、小―如心齋好
及台子	黒真塗 二本柱 筆返しあり 利休好 桑木地小 元伯好
竹台子	珠光好 天板、地板共に桐木地、竹四本柱
爪紅台子	青漆爪紅小 二本柱 元伯好
桑台子	桑木地、二本柱 元伯好
高麗台子	一閑張四本柱 元伯好 黒爪紅一閑張 即中齋好
桐台子	桑台子の形小 惺齋好
松ノ木台子	大徳寺五老松 擦漆 縁溜塗小 惺齋好

### ○ 台子の飾り

#### 諸飾り

地板の勝手付きに風炉釜、客付に水指、その間向う寄りに柄杓立。  
これに火箸、柄杓を飾る。その前に建水、蓋置。天板中央に茶器。

## 二飾り

建水なし、総飾りには天板に両器。

## 風炉二つ飾り

地板に風炉釜と水指のみ、天板に両器。

## 竹台子一つ飾り

地板中央に風炉釜一つ飾る。天板客付よりも三分の一の所に茶器。

## 二つ飾り

地板風炉の勝手付きに柄杓、蓋置。総飾りは更に天板に両器。

(客付三分の一)

## ◎紹鷗棚 (一名紹鷗袋棚ともいう)

武野紹鷗好、二枚引戸のある地袋があり。その上に四本の柱を立てて天板がある。

糸目紹鷗棚—即中斎好

## ○飾り方

初飾りは地袋右側に平水指(捻梅水指等)を入れ地袋の上中央に茶器。

二つ飾りの時は更に地袋の内、左側に柄杓、蓋置。

総飾りは二つ飾りと同様で両器を地袋中央に飾る。

## ◎袋棚

桐木地 利休形

この利休袋棚は台子、紹鷗棚、丸卓、旅筆筒とともに棚物の基本となる。

### ○飾り方

水指は地袋の右側、地板上に飾る。

初飾りは左側地袋の上に茶器。

二飾りは水指の上の棚（柄杓棚）に柄杓（縦に）蓋置。

総飾りは更に茶器のところに両器を飾る。

## ◎鴨脚台子（いちようだいす）

大徳寺山内の銀杏老樹を、かつて又玄斎が無学和尚に所望して台子を作ろうとしたが果たせず、不見斎がその意志をついで作ったものである。用材は銀杏で、溜塗となった一燈好み扱いは及台子に準ずる。炉専用である。

## ◎寒雲棚

玄々斎が寒雲亭の向切に使用すべく好んだ棚。

用材は赤杉の木地に、松の皮付柱を立て、取り外しのできる中板が付いている。炉、風炉共に使用できる、運び棚である。

また円能斎好みで香狭間透かしの板の入ったものもある。

## ◎長板

真塗	大小	一利休形
溜塗		宗全好
桐木地	大小	随流齋好
一閑張	大小	元伯好
桐黒搔合	大	了々齋好
一閑溜塗		碌々齋好（炉、風炉兼用）
青漆爪紅	大	惶齋好
	小	了々齋好
松木摺漆	大	惶齋好
	小	啐啄齋
桑		啐啄齋
その他		（以上大は風炉用、小は炉用）

## ○飾り方

台子の地板の飾りに準ずる。

## ◎大板（半板とも云う）

真塗	紹鷗好
櫨搔合	如心齋好
桐搔合	碌々齋好
青漆爪紅糸巻	淡々齋好
桑木地	認得齋好
一閑張	玄々齋好

風炉用の長板の半分の大きさでいろいろな用材があるが真塗が基本で、木地または掻合わせがある。扱い時水指は運びとなる。

## 【小棚】

### ◎二重棚

溜塗	吸江齋好
桐木地	惺齋好
桑木地	惺齋好
糸巻棚	青漆爪紅 碌々齋好
春慶塗糸巻	地板有り 惺齋好
杉木地糸巻	地板有り 惺齋好
糸巻透二重	地板有り 惺齋好

### ○飾り方

初飾りは水指の上の棚に茶器。二ッ飾りは天板に柄杓を斜めに左側に蓋置を飾る。三ッ飾りは二ッ飾り同様ではあるが天板の右に柄杓を縦に飾り左に蓋置を置く。総飾りは水指の上の棚に茶器と茶碗を並べて飾る。割り飾りは茶器をおく棚に茶碗を一つを飾り天板に、茶器、柄杓、蓋置を飾る。茶器の位置は右から三分の一前後は中央。蓋置は左から三分の一見当で柄杓は蓋置と天板の左端との中央に飾る。

## ◎四方棚

二本柱の台子を半分にしたような形の棚。

桐木地 利休形（角がある方）

江岑形（角が丸い方）

松ノ木摺漆 惺斎好（角丸）

青漆爪紅 惺斎好（角丸）

一閑溜爪紅 即中斎好（角丸、小型）

## ○飾り方

水指を地板に飾る。

初飾りは天板に茶器、二つ飾りは更に天板勝手付に柄杓、その下時板の上に蓋置。

三つ飾りは天板に柄杓（斜めに）蓋置。

総飾りは二つ飾りの形で天板中央に両器。

## ◎高麗卓

一閑黒 宗全好

真塗 鴻池宗知好

溜布目 惺斎好

青漆爪紅 惺斎好

## ○飾り方は四方棚と同様

### ◎丸卓

桐木地	利休形
溜塗	啐啄齋
青漆爪紅	惺齋好（一閑張）
松ノ木摺漆	惺齋好
一閑張黒	元伯好

### ○飾り方

水指を地板に飾る、天板に茶器。二つ飾りは天板に柄杓、蓋置。  
総飾りは天板に両器、その真中、縦に柄杓地板水指の前に蓋置。

### ◎三友棚

この棚は明治初期に時の大徳寺管長が三千家の親和をはかり山内の松、竹を自ら提供して、当時の表千家碌々齋が天地の方円の松ノ木にふき漆をして好まれ、二本柱の竹を裏千家の又妙齋が好まれ、天板の小口に溢梅の蒔絵を官休庵の一指齋が好んだゆかりのある棚である。

### ◎旅筆筒

秀吉が小田原攻めの時、利休が携行したと伝えられる掛金のある棚。

桐木地	利休形
小型木地	碌々齋好（勝手用に好）
桐春慶塗	惺齋好



## ○ 飾り方

水指を地板に飾る。

初飾りは水指の上の中棚に茶器。二つ飾りは更に柄杓を上の中棚の切り込みにかけその下の地板に蓋置。総飾りは二つ飾りの形で中棚に両器を飾る。割り飾りもすることができる。茶器は上の中棚、茶碗は下の中棚、柄杓、蓋置は所定の場所。

(註) この棚は中棚を取り出して芝点をすることができる。

又、中棚を上の中棚に重ねる事もあります。

## ◎三木町棚

三木町棚は紀州和歌山市内の地名で、この棚は杉、桧、樅の三種の寄せ木で江岑好（一名江岑棚ともいう）竹摘み

桐木地 覚々齋好

## ○ 飾り方

水指を地板に飾る。

初飾りは天板に茶器、引き出しの中は何も入れない。二つ飾りは引出しに茶器、天板に柄杓、蓋置。総飾りは、天板の上に両器を飾り引き出しの中は空、蓋置は持ち帰る。又、両器飾りといい、引出しに茶器、天板に茶碗を飾る事もある。

## ◎五行棚

玄々斎の好みの棚で、焼き杉の杳目洗い出しに三本の白竹柱でできている。三本の竹の柱は三節を勝手付に二節を客付に一節を向う柱とする。この棚は風炉の中置用に好まれたもので、風炉を入れるための棚で、水指棚として使用することはない。風炉は小振りの土風炉が適している。

## ◎桑小卓

桑木地 仙叟好

桐木地 吸江斎好

春慶塗 惺斎好

柳小卓 柳木地 惺斎好

## ○飾り方

水指を地板の上の棚板に飾る。

初飾りは天板に茶器、二つ飾りは天板に柄杓、蓋置。三つ飾りは天板に茶器、柄杓を勝手付柱に立てかけて蓋置きを地板中央に入れる。又、蓋置を建水に入れ地板に飾ることもある。

総飾りは三つ飾りと同様に天板に両器を飾り建水も飾る。

## ◎抱清棚

桐木地      吸江齋好

杉木地      碌々齋好

他に類を見ない少し変わった棚である。利休形の道庫の二つ切の寸法から出来たと言われ、ほとんど炉で使われる。

### ○飾り方

初飾りは、中の棚に茶器を飾り、地板がないので水指は運びだして最後に持ち帰る。二ツ飾りは、中の棚板に茶器を飾り、竹釘に柄杓、その下に蓋置を飾る。総飾りは、中の棚板に両器を飾り、竹釘に柄杓、その下に蓋置をおく。

この棚の中板は前に引き出せるようになっているので、旅筆筒の芝点と同じように、棚板を畳に取り出して点前することができる。

## ◎好文棚

溜塗      惺齋好

大正十一年の北野献茶の時に惺齋が好まれ、透かしを梅形にし、梅の異名である好文をとって好文棚と名付けた。

棚の形は違っても地板のある二重棚の扱いは異ならない。

この棚に引き出しを付け梅形の透かしを香狭間透かしにしたものが木屋町棚といい、碌々齋が京都の町の名をとって好んでいる。

### ◎旅卓

一閑張溜塗 即中齋好

全てが折りたたみになっている携帯用の棚である。飾り方は二重棚に準ずるが、棚が小さいために柄杓は天板に横にしておく。

### ◎円能卓

円能齋好みで天地、地角に形どったものである。

総桐木地で、天板は丸卓より大きく、柱は台子の柱を二本合わせただけの寸法である。炉の季節にふさわしい棚である。

### ◎源氏棚

円能齋好みの棚で、勝手付きの方、中棚と地板の間にはめられた桑の板に源氏香之図が彫って透かしてあるからの名称である。

棚は桐で柱と勝手付きの板と足は桑で四本柱になっている。炉、風炉共に用いるが逆勝手の席では使用しない。

### ◎吉野棚

円能齋好み、桐の春慶塗で四本柱は吉野丸太の面皮になっていて勝手付の方に障子をはめ、客付の方に円窓をくった小棚である。勝手付の柱に柄杓釘が打ってある。炉、風炉共に用いるが、風炉の時候には障子のところを葦簾に替えて使用する。

## ◎徒然棚

淡々斎好みで勝手付に二段、右向うの腰板に一段の業平菱の透かしがある菱形の小棚である。桐の春慶塗と桑木地の二種類がある。上部に菖蒲皮引手の二枚引き磯馴松の絵が描かれた小襖のはまった袋棚があり、その中に茶器を入れるようになっている。

菱形になっているから上巳の節句に用いてよく、炉用で広間に用いるとよい。袋戸をあける時は左手で左側の方をあけ、右手で右の方をあける。中から棗その他の物を出して右の方から閉め、左を閉める。水指は華やかなものがよい。